

摩耶山（麻耶山）

大和工営一等三角点の会

（冠字番号 以 第9号）

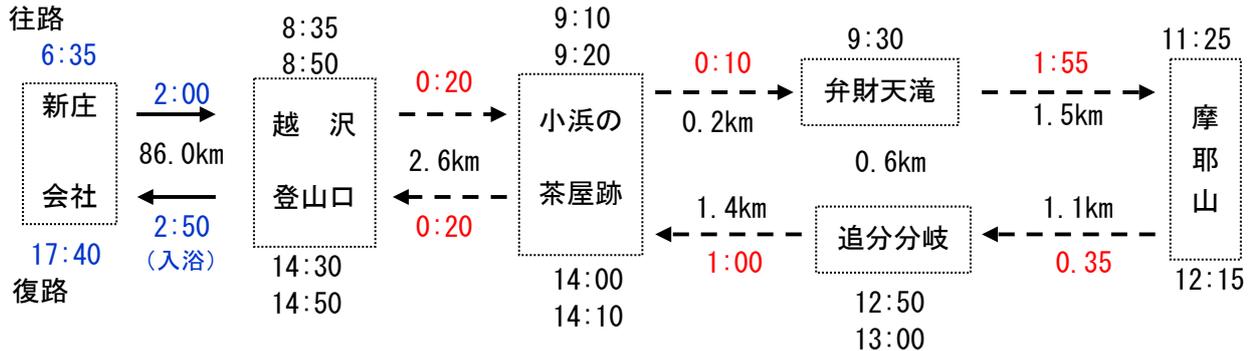
成果 X=-163693.107m
Y=-96399.078m
標高 1019.84m

世界測地系「測地成果2011」

点の記抜粹	選点埋観	明治28年6月29日 平成一年一月一日 明治31年6月28日 平成8年9月4日 （備考）平成8年8月7日更新、高度基準点測量	選点者	館 潔彦 — 川又藤四郎 金野幸弘
所在	山形県西田川郡温海町大字越沢字郷清水（163林班の小班）			

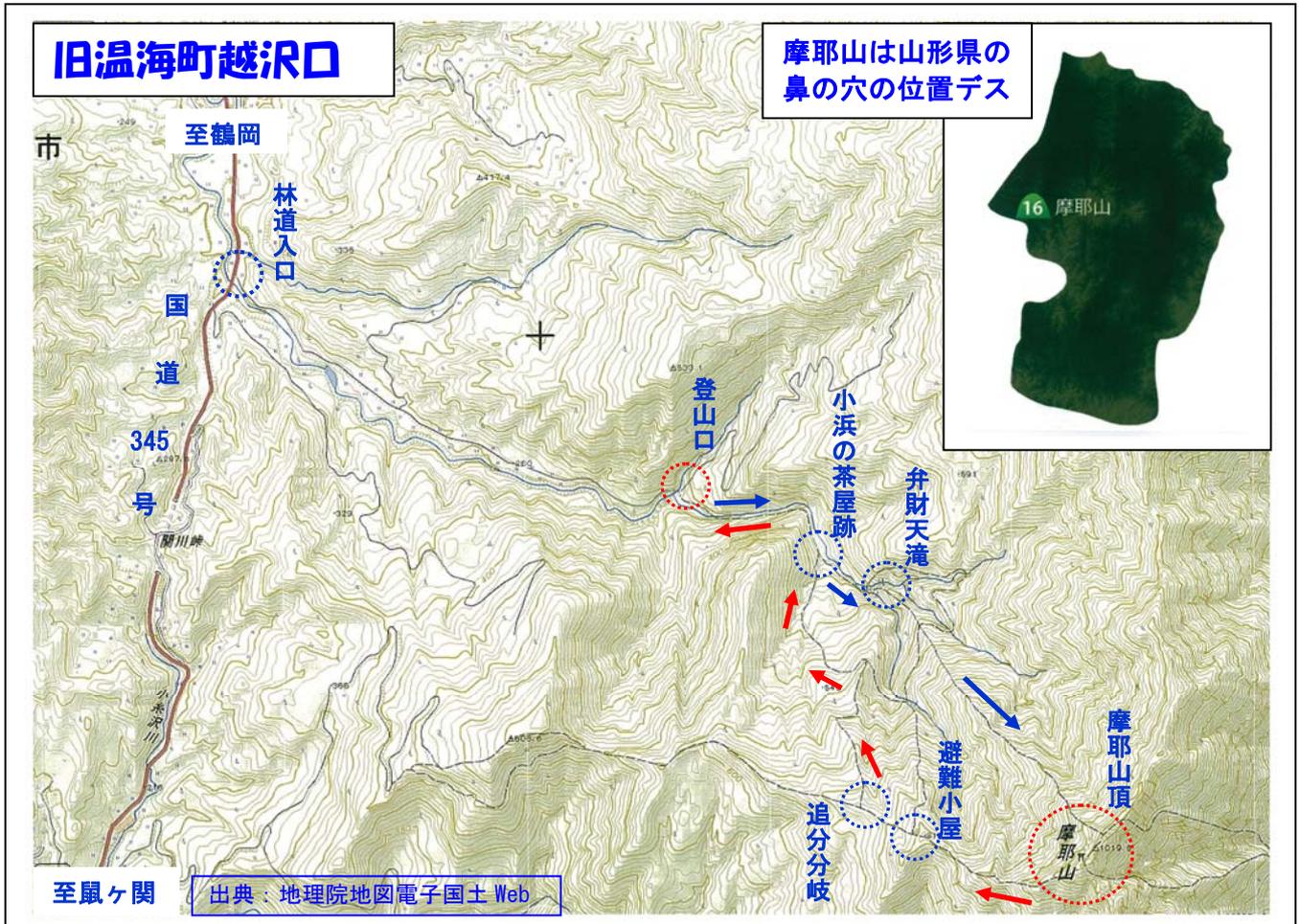
登山日 2015年9月12日（土）

コースタイム 全行程9:30（歩行時間、往路2:25 復路1:55 計4:20）※赤字は所要時間



摩耶山は朝日連峰の大展望台・・・

摩耶山（まやさん）は不思議な響きを持つ山名である。一等三角点の点名は「麻耶山」という表記になっている。登山ルートは旧朝日村倉沢と旧温海町越沢と関川の3ルートあるが、私達は越沢登山口から摩耶山を目指すことにした。標高1020mの山頂からは360度の絶景を楽しむことができる。摩耶山は自然の「大展望台」として素晴らしい眺望が楽しめる場所なのである。



旧温海町越沢口

摩耶山は山形県の鼻の穴の位置デス

至鼠ヶ関

出典：地理院地図電子国土Web

越沢口登山道を目指して・・・

摩耶山登山の参加者はゲストを含め 3 名であるが、これまで摩耶山に登った人は誰もいない。加えて越沢登山口から登る予定をしていたが、そこに至る道路も通ったことがない状態であった。新庄を Am6:35 に出発し鶴岡市の湯田川温泉を過ぎ国道 345 号を南下して進んだ。チョット油断したためか登山口に至る林道の入口を通り過ぎて隣の関川集落まで行ってしまった。念のため庭を掃除していた地元の方に確認して引き返した。

その林道の入口にはシッカリとした案内標識があり安堵した。その案内標識に導かれて林道を進んだ。瀬戸橋を渡ったところが登山口ですぐ先に駐車場があり、先客の車が 4 台ほど駐車してあった。駐車場はその奥にもあり、合わせて 20 台は駐車できるスペースが確保されているようだ。



林道入口に立派な看板ありました・・・



越川登山口駐車場

ベテランコース？中尾根を登る

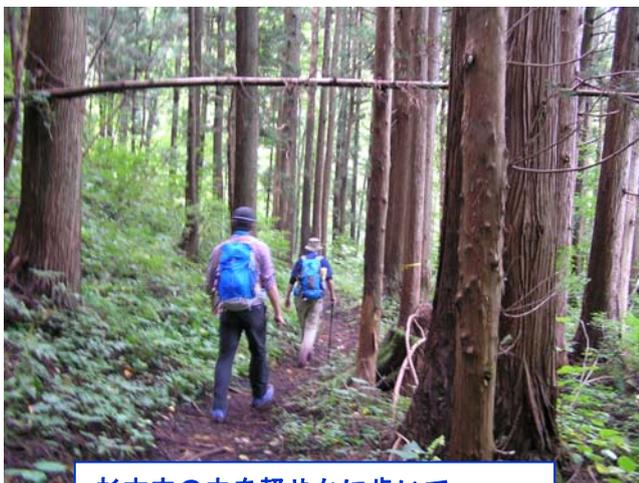
静寂な杉木立から歩き始める・・・

時刻は Am8:35。新庄から丁度 2 時間かかったことになる。Am8:50 に出発することにして身支度を整える。

登山口に移動すると瀬戸橋の傍には登山案内図の看板が建てられていた。歩き始めは閑静な杉木立の中を進む。やがて溪流と並行して道が続く。足元から切り削がれた崖の下の方に沢が流れていた。登山道と沢の高さが同じなった所にアルミ板の橋が架けられていた。この沢は庄内小国川の源流になっている。橋を渡り溪流沿いに続く登山道を歩いて行った。



瀬戸橋傍に登山案内図があり・・・



杉木立の中を軽やかに歩いて・・・

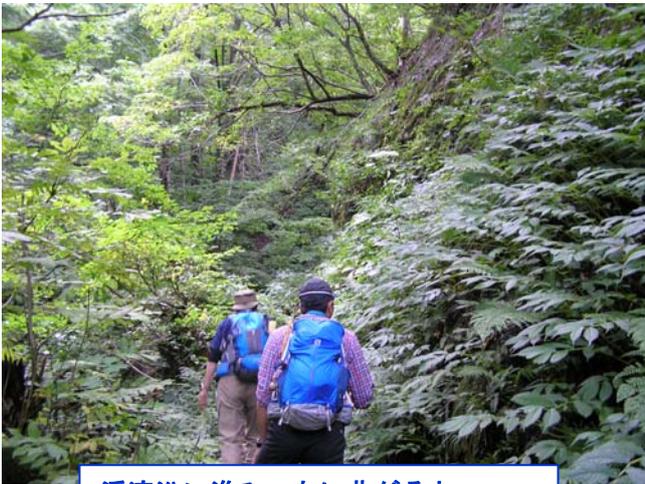


この沢は庄内小国川源流部なんです・・・

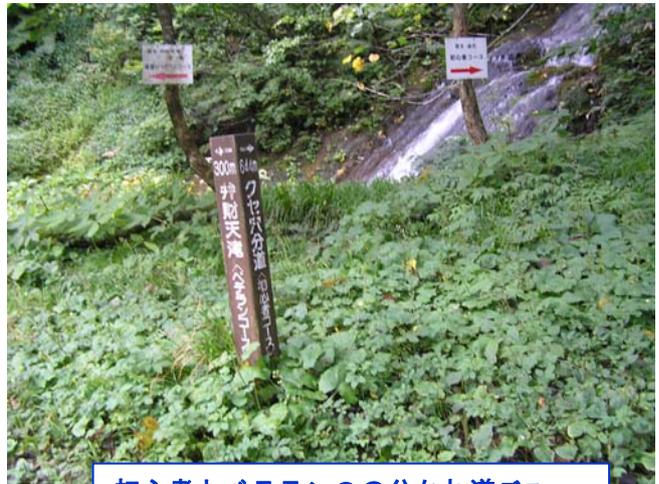
特製のアルミ板の橋を渡る・・・

迷うことなくベテランコースを選ぶ・・・

左手に沢音を聞きながら歩くと程なくして「小浜の茶屋跡」に着いた。ここに指導標があり右の追分に至る方には「初心者コース」、本流をさかのぼる方は「ベテランコース」と書かれてある。「ベテラン」を名乗るには恐れ多いが、予定していた「ベテランコース」を迷うことなく選択した。まだ登山口を出てから 20 分程しか足っていないが、「初心者コース」と「ベテランコース」の運命の別れ道で小休止をした。



溪流沿い進み、右に曲がると・・・



初心者とベテラン？の分かれ道デス・・・

迫力の弁財天滝と、滝登り !?・・・

「小浜の茶屋跡」から「ベテランコース」を 10 分ほど進むと轟音が溪谷に響き渡ってきた。弁財天滝に到着した。落差が 28m あり、この山中では最も大きい滝だといわれている。その左側には垂直に鉄ハシゴが掛けられている。「滝壺？」は大小の岩石で埋め尽くされ、その下流も落差のある崖になっていて沢水が渦を巻いて落下していく。

飛び石を跳ねながら鉄ハシゴに向かう。ほぼ垂直なハシゴを一人ずつ登る。滝の飛沫が顔に吹きかけ、濡れたハシゴを強く握りしめながら足を一步步引き上げていく。まるで沢登りにも似た錯覚に陥るような感じである。

ハシゴを登り切り、「滝壺？」を振り返ると結構な高度感がある。「迫力ある滝登り」である。でもまだ滝の途中である。鉄パイプで組まれた手すり階段を登り、本来の登山道に這い出た所でようやく「ホッ」とし胸をなで下ろした。いよいよこの先からは急登な中尾根の核心部が続く。



左側にハシゴがある・・・

落差 28m の弁財天滝を・・・



一人ずつ慎重に登る・・・

ハシゴで「滝のぼり」・・・



滝の下も、結構な落差がある・・・

滝壺の水が渦を巻いて落下する・・・

山頂は、はるか彼方に??..

息を整えて急登の中尾根コースの核心部を登り始めた。標高は手元の高度計では 450m である。山頂までの標高差は 570m もあることになる。目立った目印もない。高度計の数値を頼りにひたすら高度を稼いでいくことにした。(下の断面図参照)

お先にどうぞォー??..

745m のピークにつくと摩耶山山頂が至近距離で確認できた。そして最後の急坂を登り詰めていくと、上の方から賑やかな声が聞こえてきた。登山者が下りてくるので道を譲っていたら「お先にどうぞォ」との声掛けがあった。4,5 人の人とすれ違い「ホッ」とするとその上からも「お先にどうぞォ」との声がかかる。何でも高校の山岳競技のトレーニング中の生徒と先生で、30 名程の人に道を譲られ急坂を一気に駆け登る羽目になってしまった。



ハシゴの先に続く尾根道..



七ツ滝分岐、標高 519m..



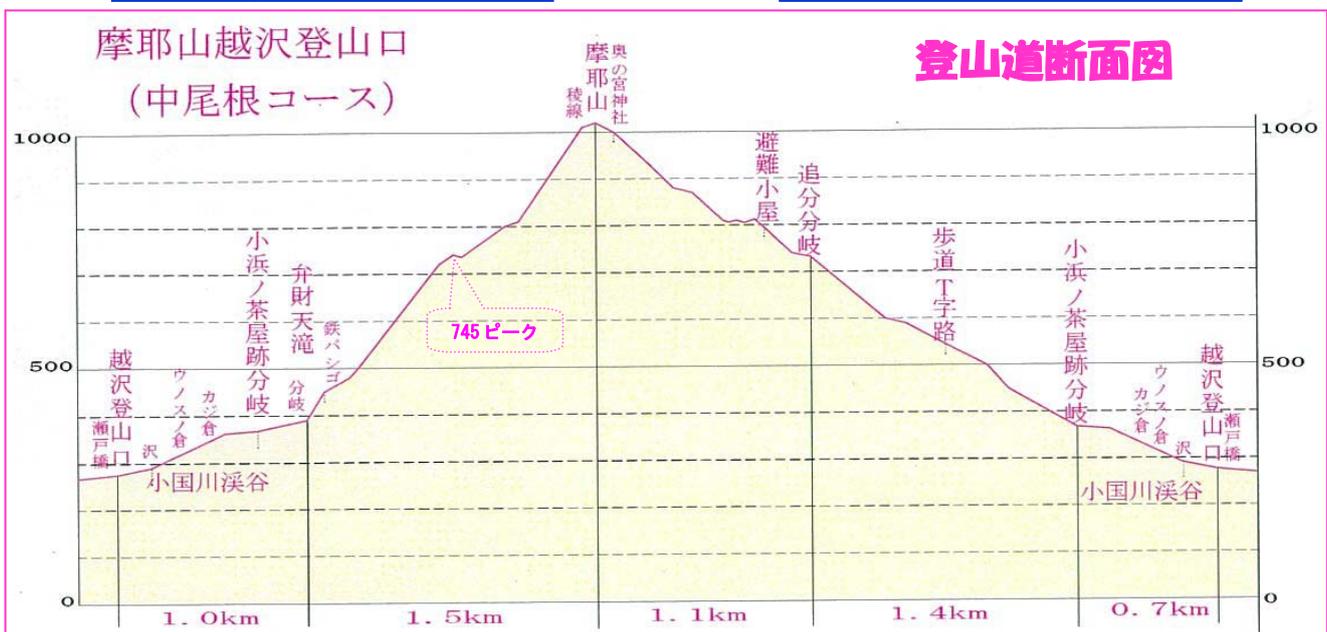
摩耶山山頂

745m ピークで山頂を眺める..



摩耶山山頂

稜線に飛び出て呼吸を整える..



眺望 360 度の大パノラマ !!..

稜線に這い上がり、「ハア、ハア、」と乱れた呼吸をしばし整えた。何とも（小さな親切、大きな〇〇〇？）の限りに思えたが、その分早めに稜線に辿りついたことは確かである。

摩耶山は「磐梯朝日国立公園」の大展望台として登山愛好者に親しまれているという。晴れて視界が効けば朝日連峰はもちろん、鳥海山、月山、そして遠方は男鹿の寒風山、佐渡島も眺望できる大パノラマの地点である。

稜線から山頂までは数分程の距離である。山頂には中年の二人組の先客が寛いでいた。

絶景が広がる摩耶山山頂!!

時刻は Am11:25。摩耶山頂にたち、360 度の絶景を見渡してみた。山頂からの障害物はなくまさに大自然の展望台に違いがなかった。

しかし、天気はいいのだが高曇りで日本海と空の境界線の判別がつかない。近々登る予定の朝日連峰東端の「以東岳」の峰を探した。眼下の荒沢ダムに注ぐ東大鳥川を目で上流へと辿ると右側の天空に聳えていた。が、高曇りの空なので肉眼で確認するのがやっこのことである。

やがて先客の方達は摩耶山避難小屋の方向に下山して行った。山頂の「展望台」は私達だけで独占し、昼食をしながら絶景を楽しんでいた。

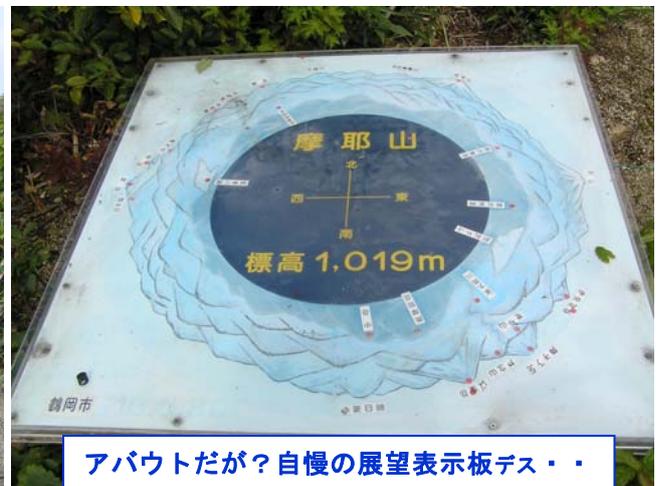
3つの山を合わせて摩耶山と呼ぶらしいが・・・



三角点を囲み証拠写真を撮り・・・



山頂を独占し、昼の準備をする・・・



アバウトだが？自慢の展望表示板デス・・・



眼下には荒沢ダムの湖面がひかり・・・



(肉眼では) 憧れの以東岳も望める・・・

初心者コースから下山する・・・

Am12:15 に下山を始める。摩耶山避難小屋を
經由し小浜の茶屋跡に至る「初心者コース」のルートである。山頂直下の登山道が東側に崩れ落ちて
いる箇所^{まやさん}にロープが張られており、慎重に足の踏み場を選んで通過する。その地点を通り過ぎて
下ると「廐山の奥の宮」が現れ、更に下ると個性豊かな「六体地藏尊」が出迎えてくれた。どちら
もそのいわれを説明した案内板があり、摩耶山信仰の一端に触れたような気がした。



奥の宮

廐山の奥の宮

昭和31年再建祭神は主神に
羽越民俗の遠祖を祀り廐の大
神を合祭する。聖徳太子・仏母
摩耶夫人の霊を祀る満屋山城
輪神社の跡である。静岡市

どちらも、丁寧な・・・



六体地藏尊

六体地藏尊

六個の地藏尊が安置してある。
昔はここで六根を清浄抜して、
頂上御室前を拝す順序であつ
たと云う。(高山植物を愛護しま
しょう) 静岡市教育委員会

説明文がありました・・・

初心者コース？、結構急坂です・・・

急坂の下りが続く。初心者コース？にしては
かなりの急坂である。下りが苦手という春樹さ
んだが、まだ下り始めたばかりなので余裕であ
る。雨で剔られた登山道は所々に段差が出来て
いた。ここを登るのが果たして「初心者コース」
でいいのか？少し疑問を覚えるほどである。



摩耶山避難小屋

山小屋に太陽光発電？？・・・



蛍光灯が光る



鼻くくり坂（八合目）

木に掴まりながら下る・・・

避難小屋に電気が！？・・・

八合目
の「鼻くくり坂」を下ると坂の勾配も緩くなり
摩耶山避難小屋に到着した。なんと玄関脇に太
陽光発電のパネルが設置されていた。玄関を開
けて中を覗くと床は土間で、柱に電気配線がさ
れ天井には蛍光灯が取付られていた。手元のス
ッチを押してみた。薄暗い部屋がパッと明るく
なった。自然豊かな避難小屋に電気が灯る。今
まで考えた事のない光景を目の当たりにした。

懐かしの「小浜の茶屋跡」??

追分の
分岐から越沢口へと下った。ここも急坂でブナ
の根っこが網の目のように登山道を覆ってい
た。滑べらないように慎重に下った。「クセ穴」
という杉林を通り過ぎ「小浜の茶屋跡」に出た。
初心者とベテランの合流地点。初めてなのに懐
かしい気分がした。駐車場には 20 分後 Pm2:30
に到着した。往復 5 時間 40 分の山旅。初めて
登った摩耶山だが、午後 3 時の明るさせいもあり
清々しい気持ちに包まれていた。



次の一步を探しながら、下山する・・・